

教材教具名 「サルサ」で楽器を楽しもう	教科 ( 音楽 )	
教材教具写真 楽譜(作曲: 國川)を次のページに別添		
教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等		
1 ねらい	ラテン系の軽快な音楽に合わせて、さまざまな楽器の操作を楽しもう。	
	* 個別の課題に応じたねらい さまざまな楽器に親しむとともに、楽器操作についての興味・関心を高める。 伴奏に合わせてテンポをとったり、リズムカルに鳴らしたりする。 曲のはじめと終わりを意識して、楽器を操作する。(特に終わりを意識させたい。) 友達や先生と一緒に演奏する楽しさを味わわせる。	
2 発達段階	中学部1学年の生徒全員で取り組んでいるが、発達段階にかかわらずどの生徒にも主体的に取り組ませやすい。(課題も「1 ねらい」のように設定できる。)	
3 使い方	音楽室のステージにさまざまな楽器を並べておき、活動開始時に幕を開けて披露する。 楽器: ボンゴ、コンガ、マリンバ、ウッドブロックスタンド、マラカス、ギロ、カバサ、パドルドラム、ラトルスティック、カウベル、スレイベル、鳴子、木魚等 伴奏: ステージ下でクラビノーバによりMTが伴奏。 5~6人ずつ、交替で演奏する。はじめと終わりは、クラビノーバの伴奏(和音)であいさつをし、合奏の発表という意識づけをする。 MTの「1! 2! 1, 2, 3, 4」で合奏を始める。STは、生徒の楽器への主体的なかわりを大切にしながら、楽器操作の支援を行う。(細かい操作にこだわらない。)また、フレーズ終わりに「Y e a!」で盛り上げる。MTは、生徒の様子を見ながらフレーズ(オクターブ上げての伴奏も取り入れながら)を繰り返す。終わりは、どんどんクレッシェンドし、とにかくしっかりと楽器を鳴らすように盛り上げる。	
児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)		
<p>ラテン系の楽器など、それまでの学習ではかかわったことがない楽器が多かったため、まずは、楽器自体に高い興味・関心を示していた。また、軽快なリズムの音楽(伴奏)に自然と体を弾ませ、快の表情で自発的に楽器にかかわろうとする生徒がとても多かった。それまでの活動に比べて、自分から長い時間楽器にかかわり、楽しく活動できた。</p> <p>ステージを使うことにより、演奏する側、観客になる側という意識が芽生え、発表の雰囲気刺激されてより一層演奏への意欲が高まったように思える。</p> <p>この曲は、どんなリズム、どんなタイミングで楽器を鳴らしても曲に合わないことはないため、5~6人の集団で一緒に楽器を鳴らしても他の音が気にならず、逆に合奏をしている雰囲気になりやすい。自分の鳴らしたい音を自由に鳴らすことができ、生徒の主体的な活動を制限する必要もないし、支援者が一緒に音を鳴らしても合奏が盛り上がる。また、音が苦手な生徒も耳をふさぐことなく活動できることが多かった。</p> <p>個別の課題に応じた指導を進める場合、指導者側が楽器の細かい操作にこだわりすぎて、生徒の主体性を見落としがちになりやすかったが、この曲に取り組むことで、音楽本来の楽しさをあらためて感じた。また、中学部1学年は20人の大きい集団で授業をしているが、この活動であれば、他の生徒が活動するための待ち時間がなく、すべての生徒に充実した活動に取り組ませることができた。</p> <p>さまざまな楽器を準備することで、興味・関心が長く続かない生徒も集中して活動できた。1学期終わりの数回での活動であったため、今後は、曲の終わりへの意識を高める工夫や打楽器以外の楽器も合奏にどう取り入れるか検討したい。</p>		

# 「サルサ」で楽器を楽しもう

Handwritten musical notation for the first system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff features a melody with eighth and sixteenth notes, while the bass staff provides a steady accompaniment with quarter notes.

Handwritten musical notation for the second system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff continues the melodic line with various rhythmic patterns, and the bass staff maintains the accompaniment.

Handwritten musical notation for the third system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff shows a continuation of the melody with some rests, and the bass staff continues the accompaniment.

Handwritten musical notation for the fourth system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff features a melodic phrase that concludes with a double bar line, and the bass staff continues the accompaniment.

Handwritten musical notation for the fifth system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff includes a melodic phrase followed by a series of sixteenth notes, and the bass staff continues the accompaniment.

Handwritten musical notation for the sixth system, consisting of a treble and bass staff. The treble staff features a series of sixteenth notes with a dynamic marking of *f* and a hairpin crescendo. The bass staff continues the accompaniment. The system concludes with a double bar line and a final chord in both staves.